

CONTENTS

- 02 巻頭言 新年のご挨拶  
独立行政法人水資源機構  
理事長 金尾 健司
- 04 特集 水資源機構60年記念  
次代をつくる私たちの誓い  
～水のプロ集団としての誇りとあるべき将来を語る～
- 10 トピックス  
私たちも歴史の生き証人
- 12 トピックス  
利根川と霞ヶ浦に囲まれた輪中地帯を守る
- 16 トピックス  
布目ダム管理30年を迎えて  
～この先もずっと 地域に親しみ愛される  
「まほろば」ダムを目指して～
- 18 連載 気象キャスターが解説! 天気のカタ  
第31回 群馬の冬 ～豪雪とからっ風～  
気象キャスターネットワーク 新村 美里
- 20 シリーズ  
第1回 未来の水のプロにつなぐ  
～インターンシップ参加者の声～
- 22 水機構ニュース
- 24 モニター様の声・施設紹介・編集後記

新年のご挨拶



独立行政法人  
水資源機構  
理事長  
かな お けん じ  
金尾 健司

明けましておめでとうございます。  
新型コロナウイルスという見えない相  
手に振り回される日常が長く続いており

ますが、水資源機構は、国民生活や社会  
経済活動に欠かせない水の安定供給と洪  
水から国民の生命と財産を守るといふ重  
要な使命を担う組織として、業務に支障  
を来さぬよう万全の体制で感染防止に努  
めてきたところです。

さて、昨年も気候変動の影響による異  
常気象は世界中で甚大な災害をもたらし  
ました。パキスタンでは国土の3分の1  
が水没する大洪水に襲われ、中国では歴  
史的な干ばつ被害、米国やカナダ、欧州

などでも異常な高温が続き、世界同時多  
発的な干ばつによる農作物等への甚大な  
被害が発生しています。わが国でも、昨  
年6月から記録的な高温が続き水不足が  
心配されました。四国の吉野川水系の銅  
山川では、自主節水の開始から取水制限  
解除までの期間が298日間と過去最長  
を記録したほか、関西の猪名川では2  
シーズン続けての冬季渇水となりました。  
こうした地域を始め、水資源機構  
では、関係者の皆様との連携により最適

な利水運用ときめ細やかな操作に努め、  
安定的な水供給という重要な役割を果た  
してきました。一方、7月から8月中旬  
にかけては、各地で記録的な降水量を観  
測する大雨に見舞われました。機構管理  
のダムでは昨年33回の洪水調節を実施  
し、下流地域を洪水被害から守るための  
確な防災操作に努めました。

水資源開発施設の建設・改築について  
は、淀川水系の川上ダムが令和5年度に  
管理へ移行する予定であり、利根川水系  
の思川開発事業では、南摩ダムや導水路  
等の建設が最盛期を迎えています。また、  
吉野川水系の治水機能の強化を目的とし  
た早明浦ダム再生事業では工事着手に向  
けた準備に入っているほか、各地の施設  
で治水機能の強化や耐震化、堆積してい  
る土砂問題への取り組みを進めていま  
す。また、水路等事業では、木曾川水系  
において木曾川用水濃尾第二施設改築が  
令和4年4月に新たに着手、愛知用水三  
好支線水路緊急対策は計画どおり令和4  
年度に、利根大堰の耐震補強等を行う利

根導水路大規模地震対策は令和5年度  
に、それぞれ完了する見込みです。

最近の情勢として、気候変動に対応し  
た治水機能の確保・向上や、カーボン  
ニュートラル(水力発電)、地域振興といっ  
た社会的要請に対して、国がハイブリッ  
ドダム構想を打ち出すなど、ダムの役割  
強化が求められています。それには、事  
前放流や発電強化のための貯水池運用な  
ど、ダム操作の高度化が必要です。機構  
では数年前から京都大学、日本気象協会  
と共同で、アンサンブル降雨予測を活用  
したダム操作の高度化に関する研究にも  
取り組んでいます。そして、成果の挙がっ  
たものから順次、現場への実装を進めて  
いるところです。また、DXにもいち早く  
取り組みを始めました。例えば、タブレッ  
ト端末を携行して現場での巡視・点検を  
合理化する水路管理支援システムを全て  
の現場で運用するなど、業務の効率化・  
高度化や働き方改革の実現に向けて継続  
的にチャレンジしているところです。

前身の水資源開発公団の設立から60

年、近年の気候変動による渇水や異常洪  
水などの気象災害リスクの高まりととも  
に、当機構が果たす責任や期待は益々大  
きくなっています。水資源機構は、水源  
から水路ネットワークまでを一体的に広  
域的に管理しているわが国唯一の組織で  
す。将来に向けての担い手の確保ととも  
に、そのためのノウハウ、技術を有した  
「水のプロ集団」としての研鑽を重ね、  
引き続き水資源開発施設の適切な管理・  
建設に務めてまいります。本年が皆様にと  
って良き一年となりますことを祈念し  
つつ、併せて皆様のご支援ご協力をお願  
いいたします。

※降雨予測に伴う不確さを考慮することで将来の予測を可能にする手法

